

私のプロジェクトが遠隔観測をしている、スウェーデン北部の北極圏（ノルボッテン州・ヨックモック郡・ポルユス駅）は、白夜の季節に入っています。夜中の0時に、北の地平線に太陽が一番低くなるはずなのですが、実際はそうはなりません。一番太陽高度が低くなり、地平線ぎりぎりになるのは、実は0時40分頃なのです。

理由は2つあります。一つは現地時刻が夏時間（サマータイム）に入っていて、太陽時（疑似太陽時）よりも1時間早いこと。しかしこれだと、スウェーデン夏時間（SST）午前1時に太陽高度が一番低くなるはずですが。もう一つは、スウェーデンの標準子午線（東経15度）での地方恒星時（グリニッジ標準時よりも1時間早い）と、観測地の経度での地方恒星時が一致しないという点です（むしろ一致するほうが稀です）。東京では明石（日本標準時）よりも太陽や恒星の南中が早いのと同じ理屈です。

こうした理由から、現地での「真夜中の太陽」は、午前1時前が最も美しく見えるのです。さすがにこの時間帯、ほとんどの人は寝ているので、こういう写真は現地の人も旅行者もなかなか撮影できません。

